

神のプリンス：ダビデの生涯 ⑥

イントロダクション | 「ダビデのダンス」

ダビデは、エルサレムに「神の箱」を運び入れた時、飛び跳ねて踊りました。なぜ、ダビデ王は神の箱が運び入れられた時に踊ったのでしょうか。ダビデのダンスと「神の箱」は、21世紀の東京に住む私たちと何の関係があるのでしょうか。今日は、契約の箱がエルサレムに運び入れられるストーリーを、贖いの契約という福音の光に照らしてみたいと思います。「踊る阿呆に見る阿呆、同じ阿呆なら踊らにや損々」。

聖書 | IIサムエル記 6章 1-23 節

6:1 ダビデは再びイスラエルの精鋭三万をことごとく集めた。2 ダビデはユダのバアラから神の箱を運び上ろうとして、自分につくすべての民とともに出かけた。神の箱は、ケルビムの上に座しておられる万軍の主の名で呼ばれている。3 彼らは、神の箱を、新しい車に載せて、丘の上にあるアビナダブの家から運び出した。アビナダブの子、ウザとアフヨが新しい車を御していた。4 丘の上にあるアビナダブの家からそれを神の箱とともに運び出したとき、アフヨは箱の前を歩いていた。5 ダビデとイスラエルの全家は歌を歌い、立琴、琴、タンバリン、カスターネット、シンバルを鳴らして、主の前で、力の限り喜び踊った。

6 こうして彼らがナコンの打ち場まで来たとき、ウザは神の箱に手を伸ばして、それを押さえた。牛がそれをひっくり返しそうになったからである。7 すると、主の怒りがウザに向かって燃え上がり、神は、その不敬の罪のために、彼をその場で打たれたので、彼は神の箱のかたわらのその場で死んだ。8 ダビデの心は激した。ウザによる割りこみに主が怒りを発せられたからである。それで、その場所はペレッツ・ウザと呼ばれた。今日もそうである。

9 その日ダビデは主を恐れて言った。「主の箱を、私のところにお迎えすることはできない。」10 ダビデは主の箱を彼のところ、ダビデの町に移したくなかったので、ガテ人オベデ・エドムの家に戻した。11 こうして、主の箱はガテ人オベデ・エドムの家で三か月とどまった。主はオベデ・エドムと彼の全家を祝福された。

12 主が神の箱のことで、オベデ・エドムの家と彼に属するすべてのものを祝福された、ということがダビデ王に知らされた。そこでダビデは行って、喜びをもって神の箱をオベデ・エドムの家からダビデの町へ運び上った。

13 主の箱をかつぐ者たちが六歩進んだとき、ダビデは肥えた牛をいけにえとしてささげた。14 ダビデは、主の前で、力の限り踊った。ダビデは亜麻布のエポデをまとっていた。15 ダビデとイスラエルの全家は、歓声をあげ、角笛を鳴らして、主の箱を運び上った。16 主の箱はダビデの町に入った。サウルの娘ミカルは窓から見おろし、ダビデ王が主の前ではねたり踊ったりしているのを見て、心の中で彼をさげすんだ。

17 こうして彼らは、主の箱を運び込み、ダビデがそのために張った天幕の真ん中の場所に安置した。それから、ダビデは主の前に、全焼のいけにえと和解のいけにえをささげた。18 ダビデは、全焼のいけにえと和解のいけにえをささげ終えてから、万軍の主の御名によって民を祝福した。19 そして民全部、イスラエルの群衆全部に、男にも女にも、それぞれ、輪型のパン一個、なつめやしの菓子一個、干しぶどうの菓子一個を分け与えた。こうして民はみな、それぞれ自分の家に帰った。20 ダビデが自分の家族を祝福するために戻ると、サウルの娘ミカルがダビデを迎えに出て来て言った。「イスラエルの王は、きょう、ほんとうに威厳がございましたね。ごろつきが恥ずかしげもなく裸になるように、きょう、あなたは自分の家来のはしための目の前で裸におなりになって。」21 ダビデはミカルに言った。「あなたの父よりも、その全家よりも、むしろ私を選んで主の民イスラエルの君主に任じられた主の前なのだ。私はその主の前で喜び踊るのだ。22 私はこれより、もっと卑しめられよう。私の目に卑しく見えても、あなたの言うそのはしためのために、敬われたいのだ。」23 サウルの娘ミカルには死ぬまで子どもがなかった。

考えましょう |

1: なぜ「神の箱」は、ダビデにとって、そんなに大事なものであったのでしょうか。

2: ペレッツ・ウザは「ウザを砕く」という意味です。なぜ、ウザは打たれましたか。(参考 民数記 4:15)

- 3: 私たちが「神様」を自分にとって都合の良い「道具」として利用してしまうことはありませんか。動機を振り返りましょう。
- 4: ミカルは夫ダビデを蔑みました。なぜ、ミカルは皮肉を言って夫を軽蔑したのでしょうか。
- 5: あなたは「ゲーム」に参加する側ですか。「ベンチ」で高みの見物する側ですか。冷淡な見物人から、神の前に踊る側へと変えられるために、職場や家庭や信仰生活において、何か決断すべきことがありますか。
- 6: ダビデの時代「神の箱」はイスラエルが神の民となるという象徴でした。契約の箱のふた（贖いのふた）は、神の臨在の象徴でした。契約が更新され、イエスにより、私たち異邦人も神の民となることができます。イエスご自身が、贖いのふたとして示されました。私たちの生活における福音の力を考えましょう。

読みましょう |

民数記 4 章 15 節

4:15 宿営が進むときは、アロンとその子らが聖なるものと聖所のすべての器具をおおい終わって、その後にケハテ族が入って来て、これらを運ばなければならない。彼らが聖なるものに触れて死なないためである。これらは会見の天幕で、ケハテ族のになうものである。

注) ケハテ族は、レビ族の中でも、特別に選ばれた人たち。

ローマ書 3 章 25 節

3:25 神は、キリスト・イエスを、その血による、また信仰による、「なだめの供え物」（贖いのふた）として、公にお示しになりました。それは、ご自身の義を現すためです。というのは、今までに犯されて来た罪を神の忍耐をもって見のがして来られたからです。

祈りましょう |

- ・ 私の方法ではなく、神の方法で、主に仕えることができますように祈りましょう。
- ・ ダビデは主の前に喜び踊りました。私たちもダビデのように神に心を向けていけるよう祈りましょう。

今週～来週のイベント

礼拝 Worship & Fellowship (30「永遠の王国」)
グレースシティ・ゴスペル (31)
お弁当プロジェクト (11/5)
礼拝 Worship & Fellowship (11/6「契約の恵み」)